

短期養生を条件とする砂の安定処理とその 現地試験（島原・雲仙間道路）

九州大学
○山内豊聡
日本道路公団
平松勇
同
溜池実衛

短期養生を条件とする砂の安定 処理とその現地試験

(島原・雲仙間道路)

九州大学 〇山 内 豊 聰
日本道路公団 平 松 勇
同 溜 池 実 衛

現地の土を材料として安定処理を行い、道路の路盤や基層を築造する工法は、最近わが国でようやく実用に供せられるようになっている。その方法は現在のところもっぱらソイルセメント法などであるが、“普通ポルトランドセメント”によれば、コンクリート舗装でないがぎり、打込み後通常1週間の養生期間を必要とし、その間引続く舗装の工事を中断し、したがって交通の開始を遅延せざるを得ないのはソイルセメント法の持つ一つの欠点といわねばならない。このためしばしば養生期間を短縮することが実際に要望される。在来道路を舗装する工事においてとくにその必要に迫られる。安定処理層の養生期間を2〜3日に短縮することができれば大体その要求を満足するであろう。

日本道路公団では現在、2級国道諫早・島原線のうち、島原・雲仙区間のアスファルトコンクリート表層の延長約17Kmの有料道路を計画中であり、その舗装設計の資料として短期養生を主眼にして行なった現地産砂の実験室及び現地試験舗装の成果について報告する。

島原・雲仙間の地域は適当な碎石を入手することが困難であり、主として海路天草から入手せざるを得ないので、在来の碎石による基礎は相当高価なものとなる。このため土質安定処理の基礎が取りあげられるのであるが、現地には焼土と云われる雲仙火山系統の角閃石安山岩の礫混り砂が極めて豊富にあり、これが土質安定の最も適当なセクト材となる。

この試験研究の内容は次のとおりである。

1. 短期養生の安定処理に関する基本的検討
2. 安定処理の方法の選択
3. 安定処理の適応性をしらべる室内準備試験
(a) サンドビチューメン法

- (b) 早強セメントによるソイルセメント法
- (c) 早強セメント添加のサンドビチューメン法

4. 現地における土質安定に関する試験結果

5. 結 論

試験研究の実施にあつては、長崎県島原土木事務所とくに吉富直技師の格別のご援助を受けた。また公田の山田勝正氏ならびに九大興信男、矢野弘一郎及び土屋勝彦の諸君の労に負うところも多く、ともに附記して深く謝意を表します。